ＭＷ－３３０００Ｓ

ろ材交換説明書

製造元　株式会社　Ａ　Ｃ　Ｍ

230713

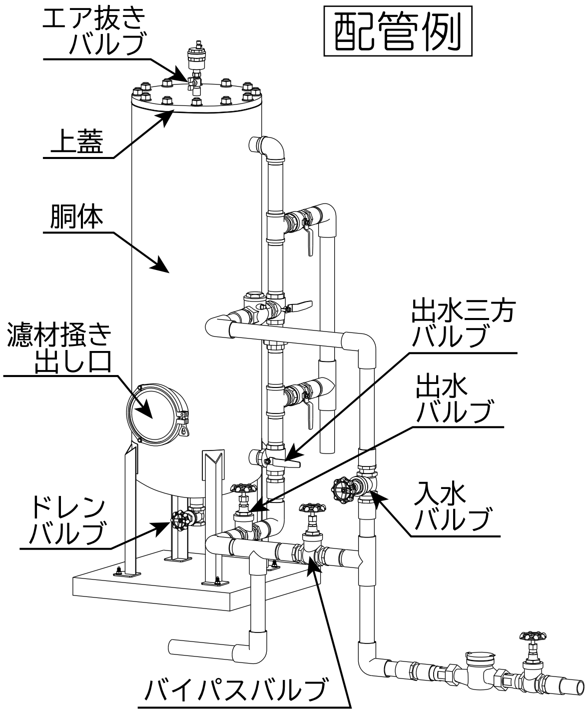
MW－３３０００S濾材交換方法

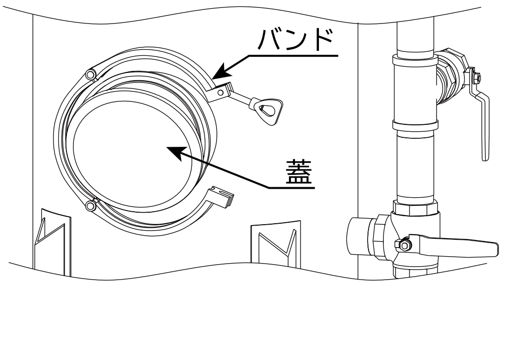
１．ろ材交換に必要なもの

・モンキーレンチ（３６㎜以上のもの）１本　‥‥‥　上蓋のナット脱着に使います。
・マイナスドライバー　１本　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　濾材を入れる時等に使います。
・１００㎝程度の棒　１本　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　濾材を入れる時に使います。
・布テープ　１個　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　濾材を入れる時に使います。
・小さなコップ　１個　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　水の検査で使います。

２．ろ材を出す

配管例の入水バルブ、出水バルブ、バイパスバルブの位置は、設置場所の状況により異なります。
※バルブの開閉および方向は、バルブのレバーに明記してあります。





１．**『バイパスバルブ』**を開ける。

２．**『入水バルブ』**を閉める。

３．**『出水バルブ』**を閉める。

４．**『出水三方バルブ』**のレバーを横にして濾過水の水流を上方向にする。

５．胴体底部の**『ドレンバルブ』**を開けて、胴体内の残留水を抜く。

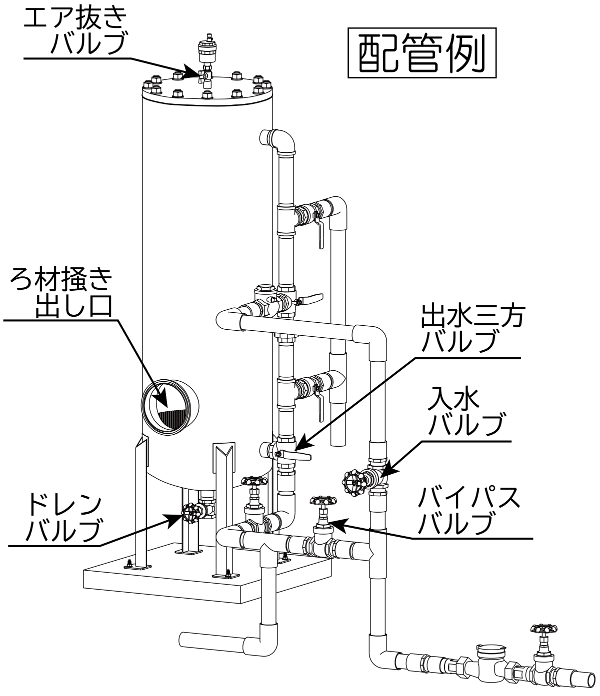
『エア抜きバルブ』が閉じている場合は開ける。

６．水の抜けたことを確認の上、モンキーレンチでナットを外し**『上蓋』**を開ける。

胴体と上蓋の間のパッキンが密着し、上蓋が動かない場合、マイナスドライバーをパッキンと上蓋の間に差し込んで開ける。

７．**『濾材掻き出し口』**のバンドを外し、蓋を開けて、濾材を掻き出す。

230713

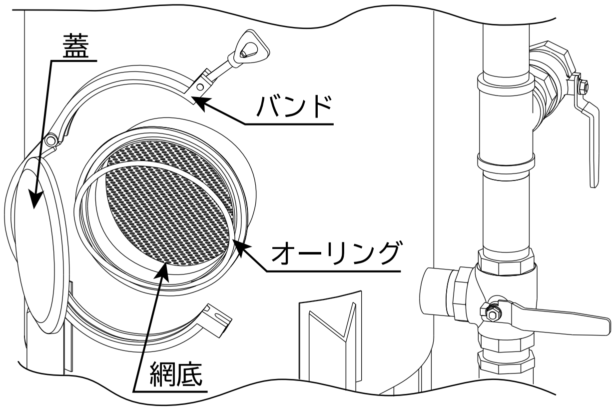


8. ある程度ろ材が掻き出し終わったら、『入水バルブ』を少し開き、上部より水を入れて胴内のろ材をきれいに洗い流す。

注）この時、胴内底部にろ材が少しでも残った場合、室内にろ材が流れ込むので必ずきれいに洗い流してください。

9. 胴内がきれいになったことを確認した上で、『入水バルブ』を閉じ、胴内の水が残らないように流す。

１０. 胴内に水が無くなったことを確認して『ドレンバルブ』を閉める。

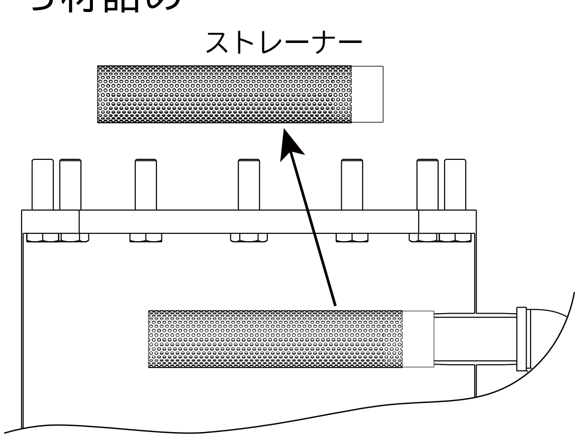


１１. 胴内底部の網底を水平にし、『ろ材掻き出し口』の“オーリング溝”をきれいにして、“蓋”と“オーリング”をきれいに洗い、取り付ける。

注）この時、オーリングがはみ出さないように蓋をセットし、バンドを締めてください。

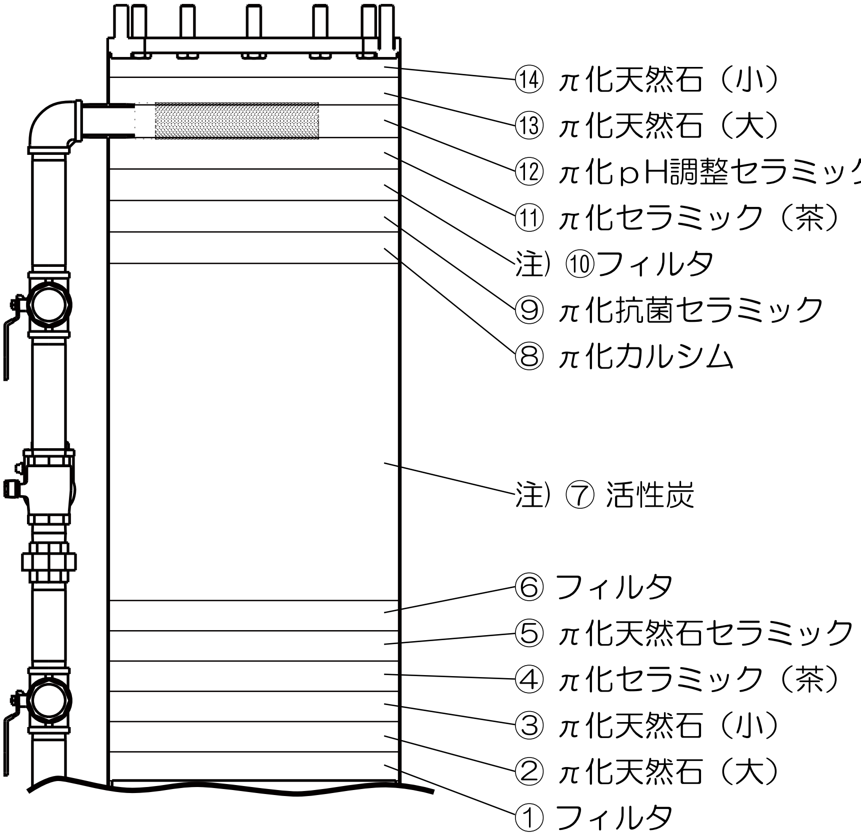
１２. ろ材詰め作業に移ってください。

３．ろ材詰め



1. 『ストレーナー』を外し（ネジ式）、布テープで胴内のネジ込み穴を塞ぐ。

ろ材の順番



２．次の点に注意し、濾材を順番通りに入れる。

- 各濾材とも平らにならしてから、次の濾材を入れてください。
- 活性炭を入れた後、棒でつつき、活性炭層を少し沈ませてから次の濾材を入れてください。これを行わないと上部の濾材が入らないことがあります。
- ⑩のフィルタを入れた後、ストレーナー穴の布テープをはがし『ストレーナー』を装着してください。
- ⑭の小粒のπ化天然石は全て入れなくても差し支えありません。⑬の大粒π化天然石の隙間を埋める程度に入れてください。この時、マイナスドライバーを使い、胴内上部の端に埋め込むようにすると良いです。

３．蓋を閉める。

胴体上の蓋を乗せる面に付いた濾材の粒をきれいに取り除いた上で、交換用パッキン（フランジパッキン）を装着します。濾材の粒が残っていた場合、パッキンの隙間からの水漏れが起きますのでご注意ください。
その後、蓋を乗せてナットを対角線状に締めます。

４．ネジを締め終わったら、洗浄運転を行う。

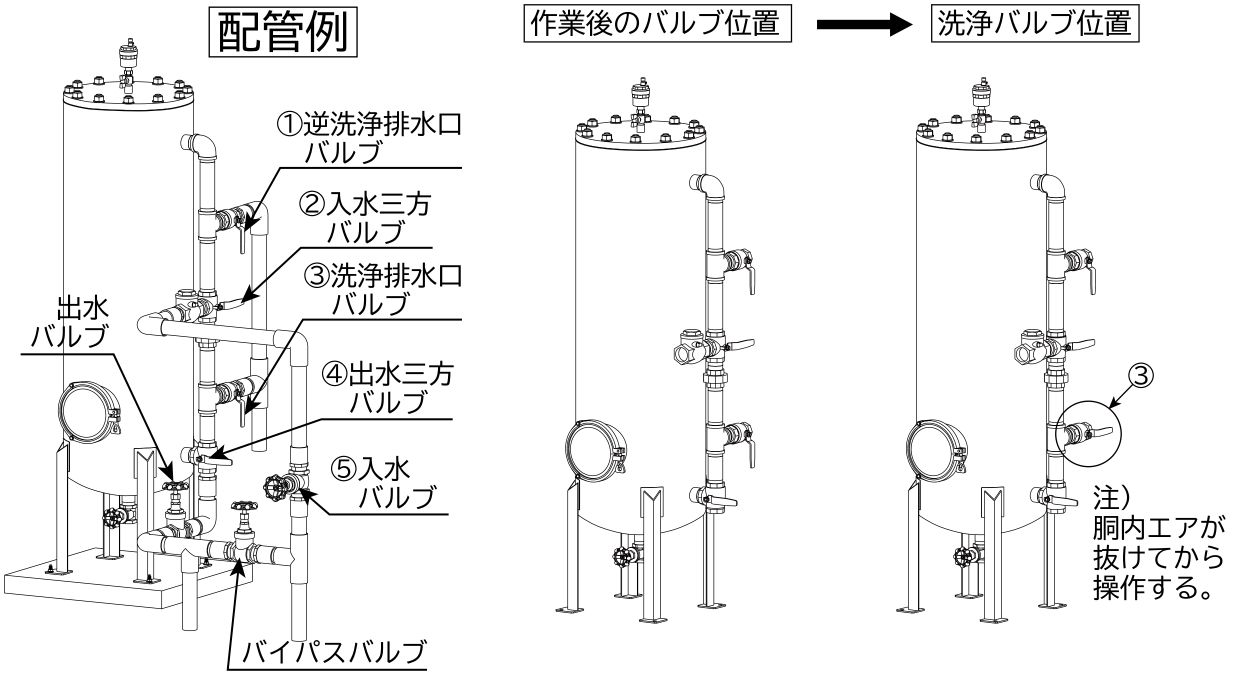
４．洗浄運転

次の順序で行ってください。

１．⑤の『**入水バルブ**』を開ける。

２．下記のバルブ操作を行う。

洗浄運転の際は③の『**洗浄排水バルブ**』のレバーのみ操作すればＯＫです。



注）洗浄の際、給水すると胴内のエアが上部のエア抜きから抜けます（この時の③の『**洗浄排水口バルブ**』のレバー位置は作業後のバルブ位置です）。エアの抜ける音が止まってから１～２分お待ちください。

その後、③の『**洗浄排水口バルブ**』のレバーを横にし、胴内の溜まりエアを抜き（５分程度流す）、再び③の『**洗浄排水口バルブ**』のレバーを操作後のバルブ位置に戻してください。

そのあと、５分程度待ち、③の『**洗浄排水口バルブ**』のレバーを再び横にして洗浄を行ってください（これは胴内最上部まで水を溜めるためです。これを行わない場合、内部の汚れが完全に取れません）。

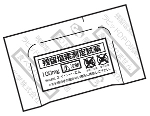
この作業を３回行ってください。

３．④の『**出水三方バルブ**』のレバーを横にして、ろ過水の水流を下方向にする。

４．『**出水バルブ**』を開ける。

５．『**バイパスバルブ**』を閉める。

５．水の検査方法　（残留塩素測定試薬 使用）



残留塩素測定試薬

これは浄水された水が正常であるかを確認する検査です。

確認方法

１．コップに浄水後の水（約５０ｃｃ）をとります。
２．付属部品の残留塩素測定試薬を１袋加えます。
３．かき混ぜて、無色透明であることを確認してください。
（判定は1分以内で行ってください。）

残留塩素測定試薬は、水道水の中に含まれている残留塩素の有無を測定する試薬です。塩素が残留していると試薬はピンクに変色します。
※但し、１分以上おくと残留塩素がない状態でも変色しますので、ご注意ください。

ご注意

- 試薬は直射日光を避け、なるべく湿気の少ない涼しい場所に保管してください。
- 品質保持のため、袋はご使用直前に開封してください。
- 試薬が変色したものはご使用にならないでください。
（保管状態により、試薬が白色から変色してしまうことがあります。）
- 検査後のコップの水はすみやかに捨てて、コップはよく洗ってからご使用ください。
- 残留塩素測定試薬および残留塩素測定試薬の入った水は、飲まないように注意してください。
- 試薬が手や皮膚についた場合は、よく洗い流してください。
- 万一、目や口に入った場合は、よく水洗いした後、医師にご相談ください。
- 乳幼児の手の届かない場所に保管してください。

230713

ご不明な点がありましたら下記にご連絡下さい。

製造元

株式会社　エイ・シー・エム

〒１３０－００２６　東京都墨田区両国４－８－１０

TEL 03-3634-7373　　　FAX 03-3634-7384